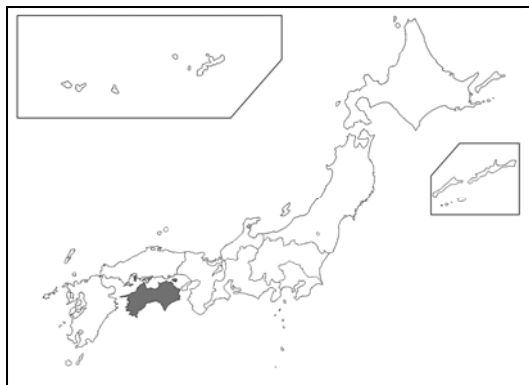


(9) 四 国



四国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

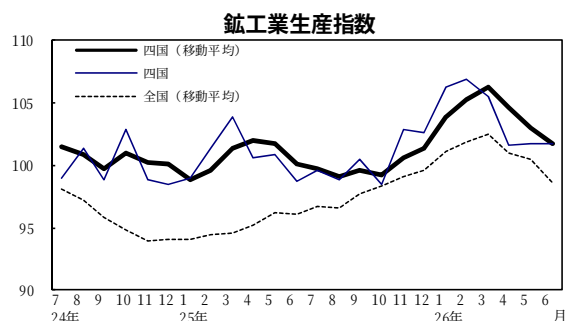
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 26 年 5 月）	今回（平成 26 年 8 月）	
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる	緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある	↑
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる	↑
住宅建設	減少	大幅に減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。

4～6月期には、化学は、医薬品で生産計画の都合により減少したこと等から減少した。電気機械は、蓄電池等でゴールデンウィークで稼働日数が低下したこと等から減少した。食料品は減少した。はん用・生産用機械は、化学機械・貯蔵槽等で納期のタイミングにより減少した。非鉄金属は、ニッケル地金の需要が引き続き堅調なこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
化学	22.9	▲ 3.7	▲ 11.8	▲ 13.5	5.7	▲ 7.7
電気機械	15.8	9.9	▲ 4.6	0.9	▲ 2.6	3.9
食料品	10.5	▲ 0.1	▲ 3.4	▲ 5.8	3.1	0.4
はん用・生産用機械	10.0	21.1	▲ 3.2	▲ 1.6	▲ 8.9	15.4
非鉄金属	8.0	10.5	2.5	▲ 1.3	▲ 0.6	▲ 0.5
鉱工業	100.0	4.8	▲ 4.2	▲ 3.7	0.1	0.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

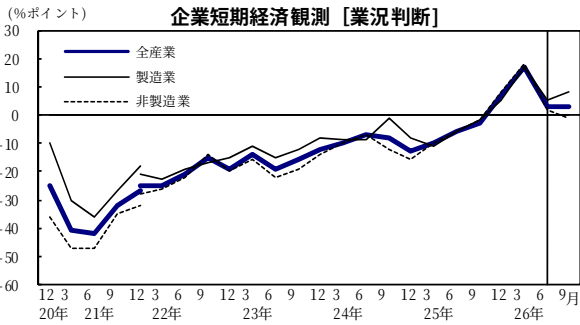
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。四国の最新月はお速報値。

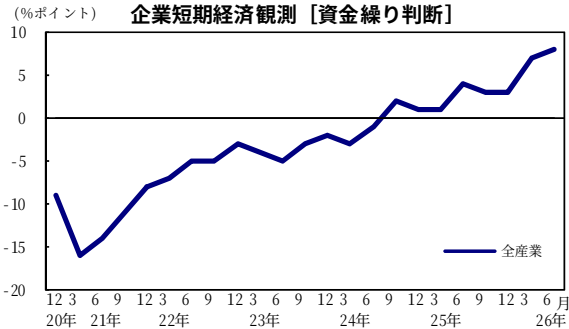
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

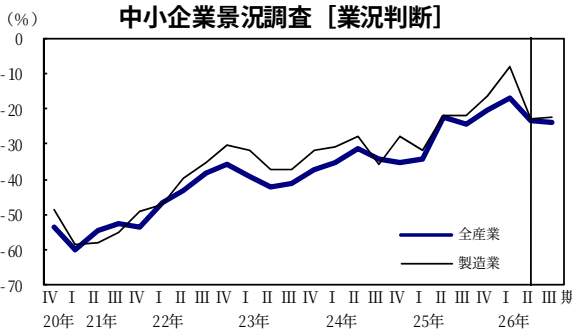
①企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。26年9月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

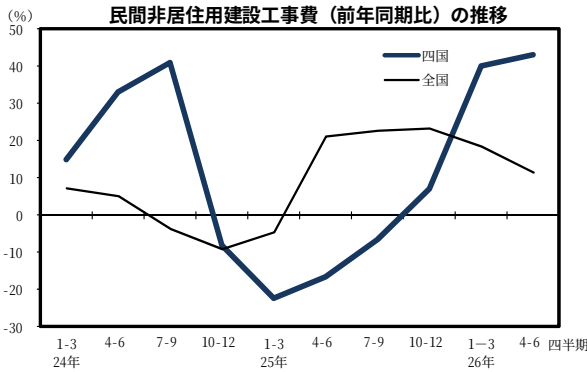


(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。26年III期は見通し。

②景気ウォッチャー調査（7月）[企業動向関連（現状）]

「国内市場向けの受注は微増傾向にあるが、海外市場向けの受注がそれを上回って減少している（電気機械器具製造業）」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資（6月調査）]

	(前年度比、%)	
	25年度実績	26年度計画
全産業	7.8 (▲4.8)	▲1.6 (▲2.3)
製造業	4.3 (▲8.6)	7.1 (▲1.4)
非製造業	11.6 (▲0.6)	▲3.3 (▲10.2)

(備考) () は前回（3月）調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる。

①地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4月は前月比13.9%減、5月は同3.1%増、6月は同0.6%減となった。

②大型小売店販売額

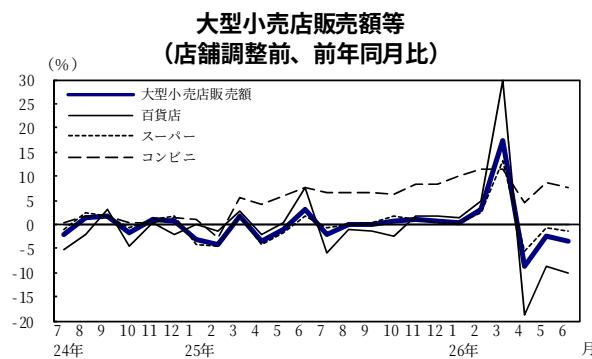
百貨店は、4月は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、寝具、化粧品、宝飾品などが不調であったこと等から前年を下回った。5月は、駆け込み需要の反動に加え、飲食料品で店舗数が減少した影響もあって前年を下回った。6月は、前年に比べ気温の低い日が多く、夏物商品の動きが鈍かったことや、一部に駆け込み需要の反動が残り、時計や化粧品などが低調であったこと等から前年を下回った。

スーパーは、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により缶詰、調味料、トイレットペーパー、洗剤などが不調だったことに加え、気温の低い日が多く、夏物の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。

③景気ウォッチャー調査（7月）[家計動向関連（現状）]

四国地域の家計動向関連DIは、49.6となり前月より4.0ポイント上昇した。

「消費税増税の影響で旅行の申込が減少していたが、6月、7月と申込状況は前年並みに回復してきている（旅行代理店）」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

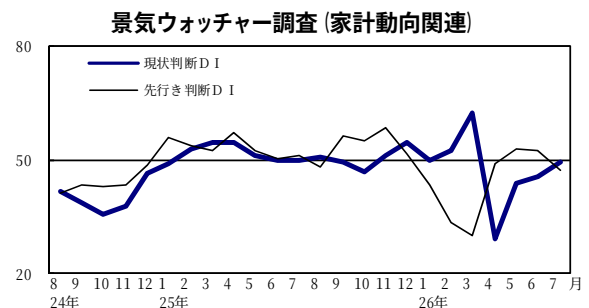
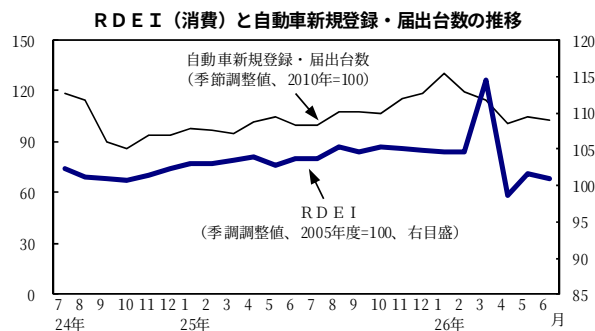


	26年4-6月	26年4月	5月	6月
RDEI（消費*1）	▲6.9	▲13.9	3.1	▲0.6
大型小売店(*2)	▲4.8	▲8.7	▲2.3	▲3.4
百貨店(*2)	▲12.5	▲18.8	▲8.5	▲10.1
スーパー(*2)	▲2.6	▲5.7	▲0.7	▲1.4
コンビニ(*2)	7.0	4.7	8.7	7.5
乗用車(*3)	0.7	▲1.5	0.7	2.6
(季節調整値)(*3)	▲15.7	▲12.5	4.6	▲2.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

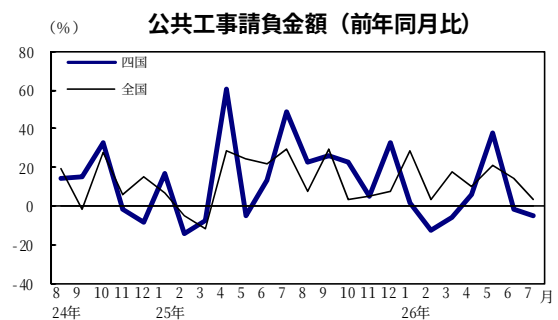
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を上回っている。

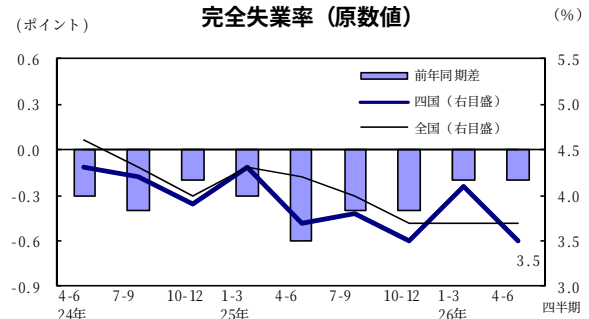
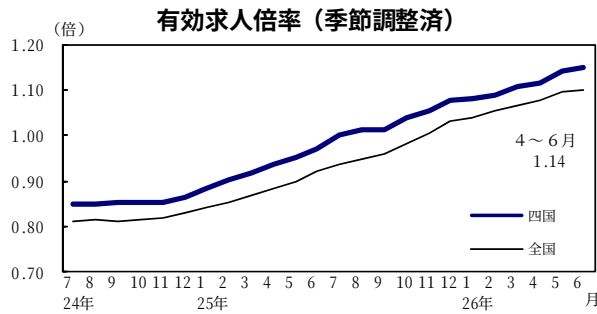


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

①有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



②景気ウォッチャー調査（7月）【雇用関連（現状）】

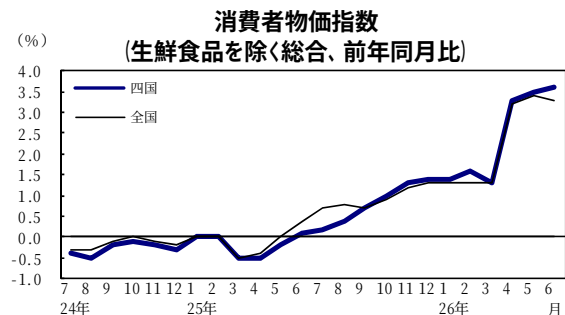
「企業の採用意欲は高くなっている。求人も前年同月比より上昇している（職業安定所）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年7-9月	10-12月	26年1-3月	4-6月	26年7月
倒産件数 (前年比)	44 ▲36.2	35 ▲49.3	49 ▲18.3	58 9.4	18 ▲10.0
負債総額 (前年比)	70 ▲64.2	96 ▲38.2	121 18.3	164 33.0	27 ▲23.3



○ 景気ウォッチャー調査（7月）【合計（特徴的な判断理由）】

<現状>

- 消費増税の影響は、まだまだ続いている。販売量は、前年に届かず苦戦している。お客様は車の買換えに積極的ではない（乗用車販売店）。

<先行き>

- 燃料価格高騰による配送費上昇が商品価格の値上げにつながると、一般消費者の消費マインドの低下に拍車をかける（スーパー）。

